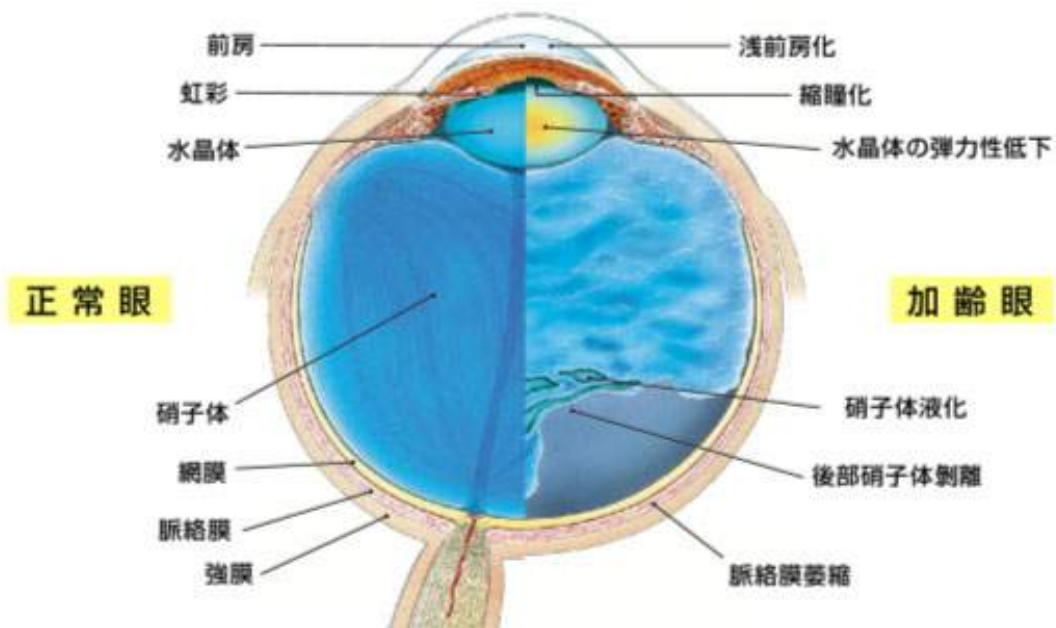
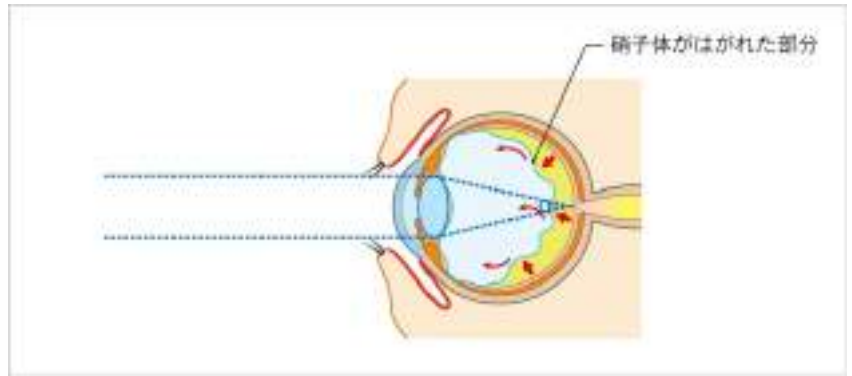
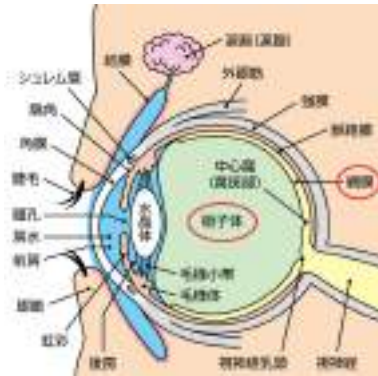


## 後部硝子体剥離

眼球の中は硝子体と呼ばれる透明でゼリー状の線維性組織で満たされており、この透明な硝子体が**加齢**により液化・収縮し、**眼球後部の網膜から硝子体が剥がれることを後部硝子体剥離**といいます。



50歳を過ぎると加齢により硝子体の液化が進み、収縮し、容積が縮むことで硝子体の後面が網膜から剥がれます。この現象を**後部硝子体剥離**と呼びます。硝子体の後面は後部硝子体皮質と呼びますが、ここは硝子体線維が濃縮されており、網膜に投影される影も強くなります。よって**飛蚊症**も大変強い自覚となって現れます。

**後部硝子体剥離**は加齢によりほとんどの人に起こりますが、生理的なもので治療は必要ありません。ただ、**後部硝子体剥離**に伴い、**硝子体出血や網膜裂孔、網膜剥離**などが起こることがあるため注意が必要です。**光視症**の症状がある場合も注意が必要です。

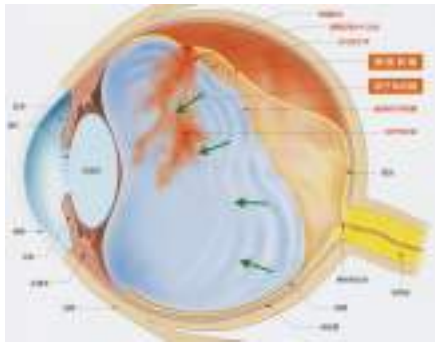
また、若い人でも強度の近視の場合は、**後部硝子体剥離**が早期に起こる場合もあります。

## 網膜裂孔・網膜剥離

**後部硝子体剥離**発生時に硝子体が網膜に癒着していると、引っ張られ網膜が破れ裂孔や剥離が起こる場合があります。この場合はレーザー治療や入院手術が必要になります。

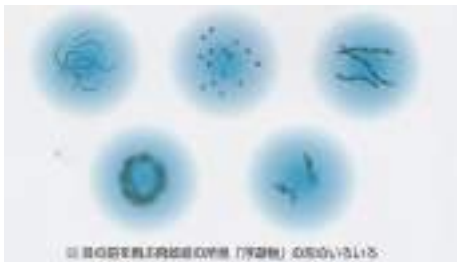
## 硝子体出血

**後部硝子体剥離**に伴って、硝子体が網膜からはずれる際に、網膜血管の一部が裂けることがあります。このことによって硝子体内に出血が拡散し、この状態を硝子体出血と呼びます。同時に網膜裂孔や網膜剥離を併発している場合もあり、注意深い観察が必要となります。



## 飛蚊症

- ・ 黒いものが動いて見える（虫、糸くず、点、輪っかなど）



## 注意が必要な飛蚊症

下記のような症状の場合は、網膜裂孔、網膜剥離、硝子体出血、ぶどう膜炎などの可能性も疑われるため、早期の検査が推奨されています。

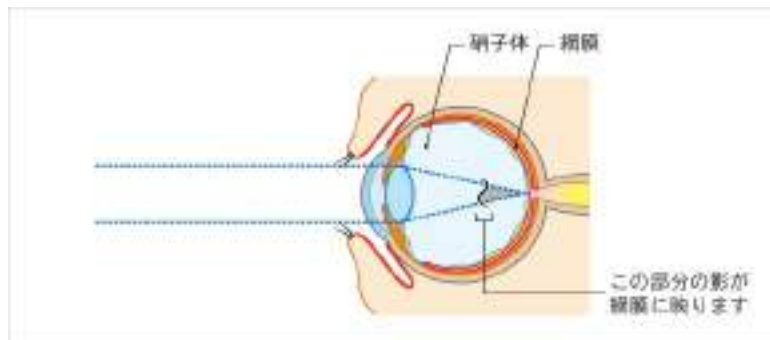
・ **黒い点や浮いているものの量もしくは大きさが増えた**

・ **墨汁の様なものが垂れてくるように見えた**

・ **視界の一部が黒く欠け、視野が狭くなっている**

・ **急に視力が低下してきた**

加齢とともにゼリー状の硝子体線維は変化し、硝子体線維の薄い部分と濃い部分に分かれます。薄い部分は液化し、液化した部分に濃い線維状の混濁物が浮遊する状態になります。ここに光が当たると、混濁物の影が網膜に投影され、これが**飛蚊症**の原因となります。つまり自分の硝子体を自分で見ているということになります。50歳未満の**飛蚊症**の多くはこれが原因です。



#### 【治療】

**飛蚊症**を自覚した場合、ほとんどが生理的なもので、**治療は必要ない場合が多いですが、稀に何らかの病気を発症している場合があります。**その場合は治療が必要です。

## 光視症

**後部硝子体剥離**が発生する際に、網膜と硝子体が引っ付いている場所があると網膜が硝子体によって引っ張られ、光がない暗い場所で視界の端でピカピカと光が見えることがあります。これを**光視症**といいます。

**後部硝子体剥離**の発生時に、光がない暗い場所にいると、視界の端の方で光がピカピカ見えることがあります、これを**光視症**といいます。**光視症**は硝子体が網膜を物理的に刺激した時に起きると考えられています。硝子体が網膜から剥がれる際に、網膜と硝子体が強く引っ付いている（癒着している）場所があったりすると、硝子体から網膜に牽引力がかかり、この物理的な力が**光視症**につながると考えられています。

#### 【治療】

**飛蚊症**を自覚した場合、ほとんどが生理的なもので、**治療は必要ない場合が多いですが、稀に何らかの病気を発症している場合があります。**その場合は治療が必要です。

参考：[京橋クリニック](#)

参考：[たける眼科](#)

